

ベネッセホールディングスのIR活動 IRを通じての問題意識

2013年3月21日
株式会社ベネッセホールディングス
広報・IR部 / CSR推進部
増本 勝彦

アジェンダ

1. 会社概要

企業理念

沿革・会社概要

事業概要

中期経営計画

株主構成

活動体制

主な活動内容(2012年度)

外部からの主な評価

2. IRの課題

投資家とのコミュニケーションギャップ

非効率な情報開示

投資家ターゲティング

企業理念



Benesse = bene (よく) + esse (生きる)

Benesseは、ラテン語のbene(良い、正しい)とesse(生きる)を一語にした造語です。前向きに人生を謳歌する、人間味豊かな生き方を象徴的に表現しました。

ベネッセでは、以下の5つの事業領域で、お客様のよく生きるを支援したいと考えています。

国内教育

海外教育

生活

シニア・介護

語学・
グローバル
人材教育

沿革・会社概要

沿革

- 1955年** 株式会社福武書店として創業
学校向け教育事業や通信教育事業等を中心に拡大
教育事業での圧倒的な地位を確立
- 1990年** フィロソフィー・ブランド「Benesse」を導入
- 1995年** 社名を株式会社ベネッセコーポレーションに変更
教育の「福武書店」から、「Benesse=よく生きる」を企業理念
とした、人の営みを軸とする総合企業へと進化
- 2009年** 持株会社体制(株式会社ベネッセホールディングス)に移行

会社概要

- 本社所在地** 岡山県岡山市北区南方3-7-17
- 資本金** 136億円
- 従業員数** 18,941名(連結)
- 上場取引所** 東証1部・大証1部

事業概要

語学・グローバル
人材教育

14.0%



ベルリッツランゲージ
センター

シニア・介護

15.7%



介護付き高齢者向け
生活ホーム

生活

6.0%



たまごクラブ
ひよこクラブ

その他

5.0%

売上高
4,237億円
(2012年3月期)

国内教育

56.7%



こどもちゃれんじ



進研ゼミ小学講座

海外教育

2.6%



中国版こどもちゃれんじ

2012-2016年度 中期経営計画

<ベネッセグループ成長ビジョン>

「教育(=人づくり)」と「社会的課題の解決」に取り組む企業として

①世界の育児と教育、人材育成をサポートする
「教育事業分野で世界No.1企業」 を目指します

②さまざまな高齢化の問題解決のため、
「介護関連事業を重要な成長分野と位置づけ、さらなる成長」 を目指します

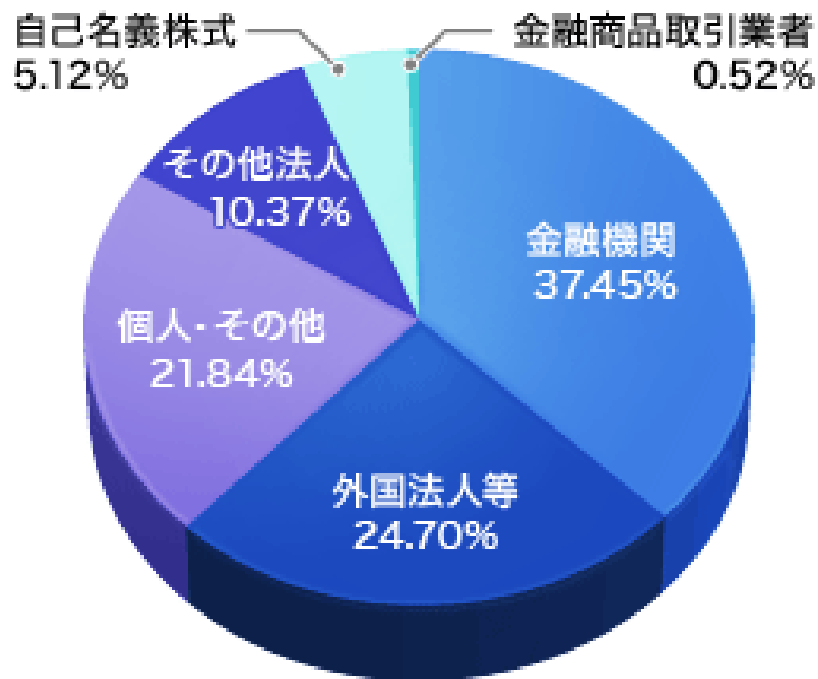
<目標数値>

	2011年度	2016年度目標
売上高	4,237億円	6,000億円
営業利益	337億円	600億円
ROE	8.7%	12%以上

株主構成

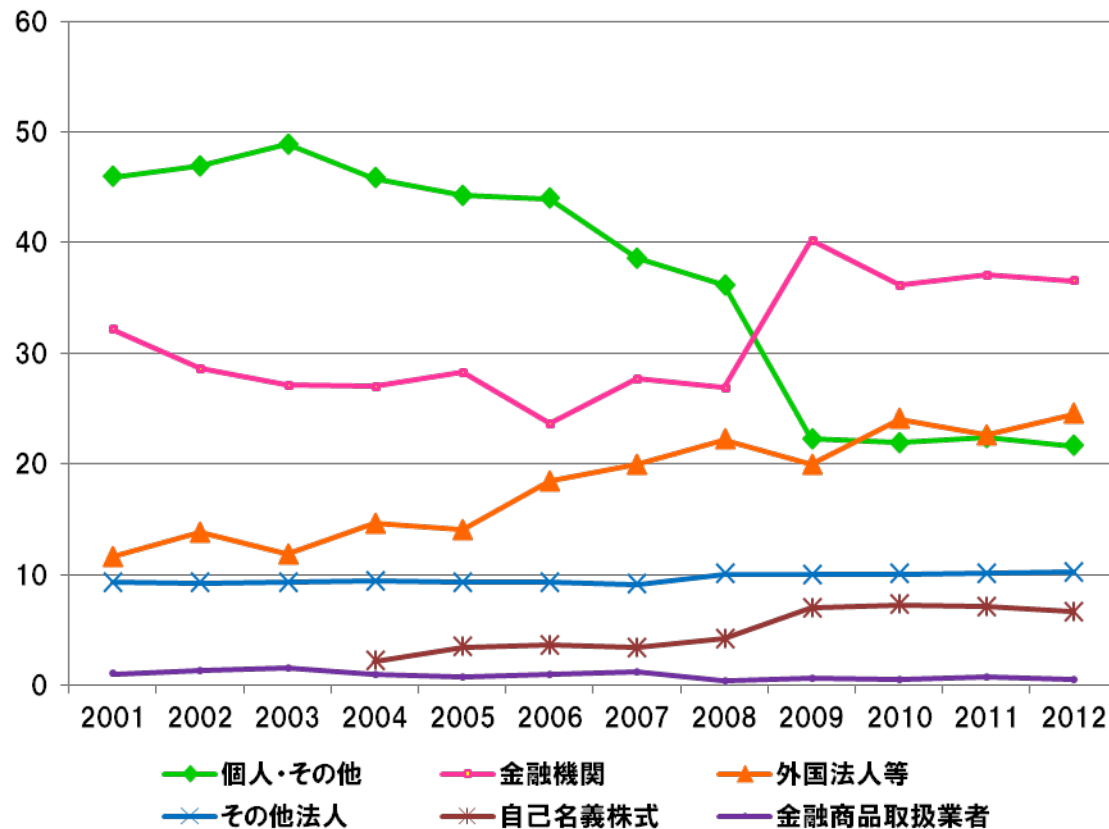
発行済株式総数： 102,453,453株

株 主 数： 35,517名



(2012年9月末現在)

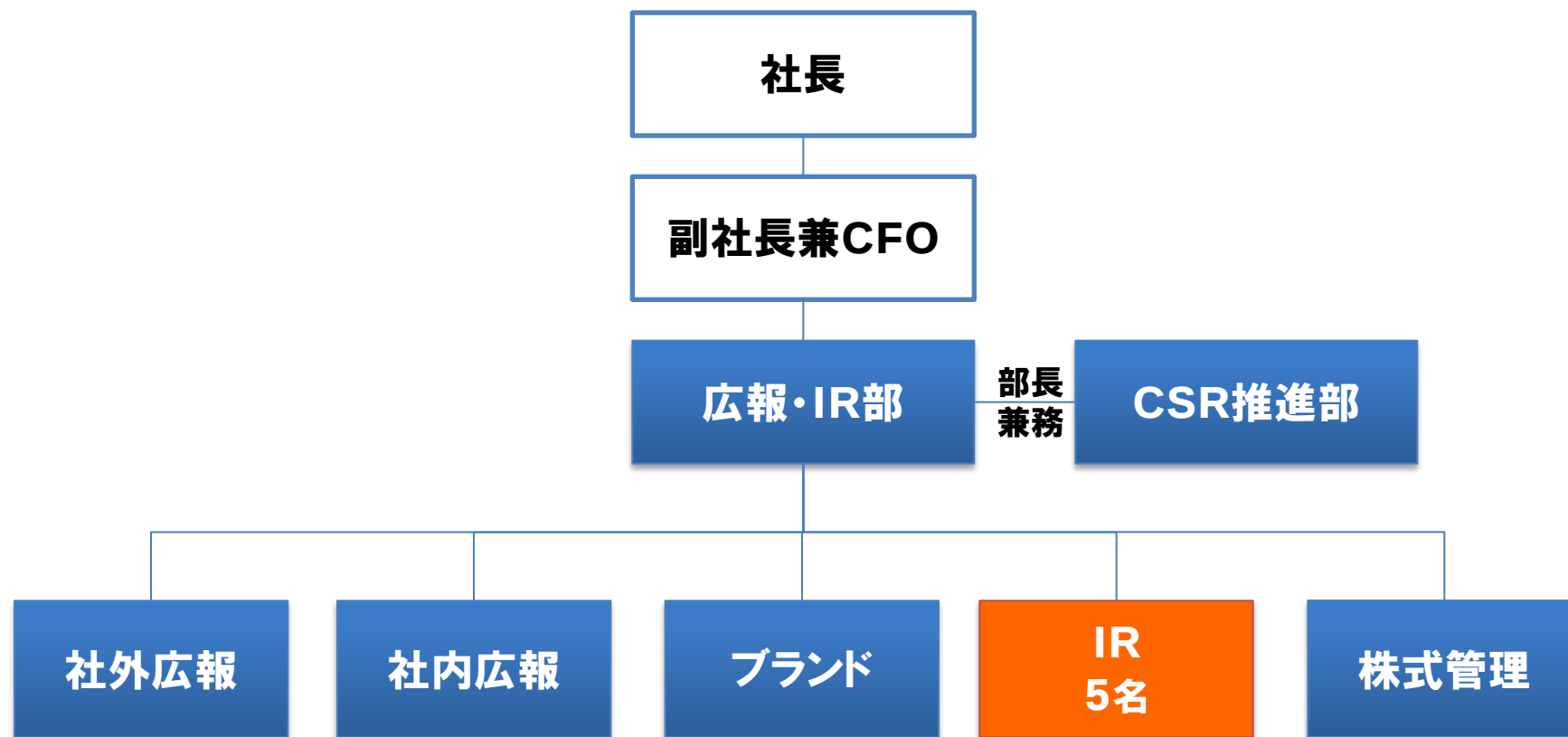
【株主構成の推移】



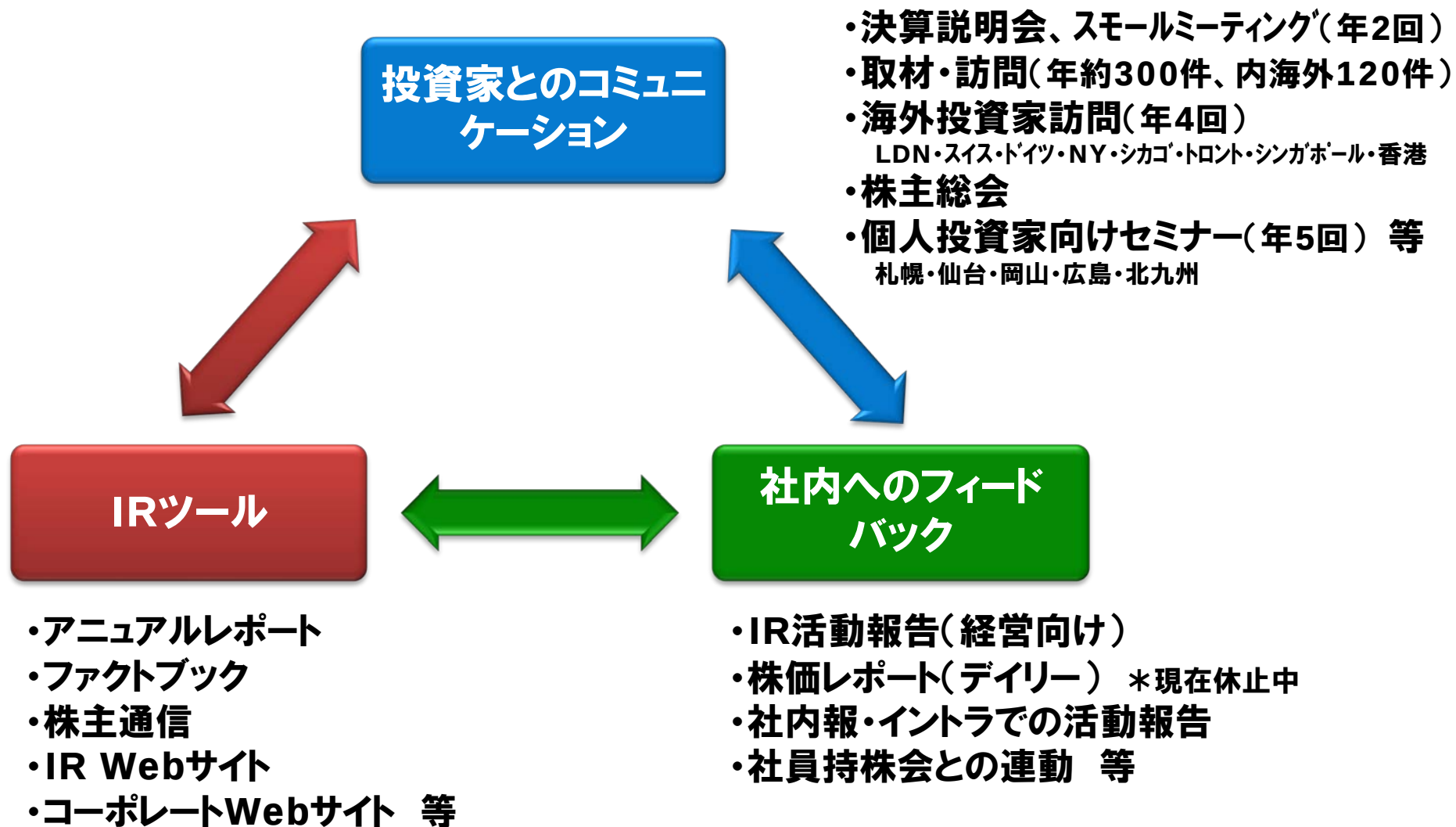
活動体制

■IR(Investor)・PR(Public)・SR(Shareholder)・ER(Employee)・
CSR(Corporate Social Responsibility)をワンストップでできる体制

コーポレートコミュニケーション:社会との安定した関係性を通じて「企業価値」を高める



主な活動内容(2012年度)



外部からの主な評価

過去の主な受賞実績

- 日経アニュアルリポートアワード 10年連続入賞(2009年最優秀賞、2010年特別賞)
- ARCアワード 金賞受賞(2010年、2011年)
- 日興アイ・アール全上場企業ホームページ調査 8年連続最優秀サイト
(総合ランキング10位)
- 大和インベスターリレーションズ インターネットIR優秀賞(初)、特別賞(初)
- ゴメスコンサルティング社 IRサイトランキング 5年連続優秀賞(総合ランキング12位)
- iNOVA Awards IRサイト部門 Gold(2008年) Silver(2009年、2010年)
コーポレートサイト(教育)部門 Bronze(2012年)
- ディスクロージャー表彰 (東京証券取引所)(2005年、2010年)
- IR優良企業賞 (日本IR協議会)(2005年) 等

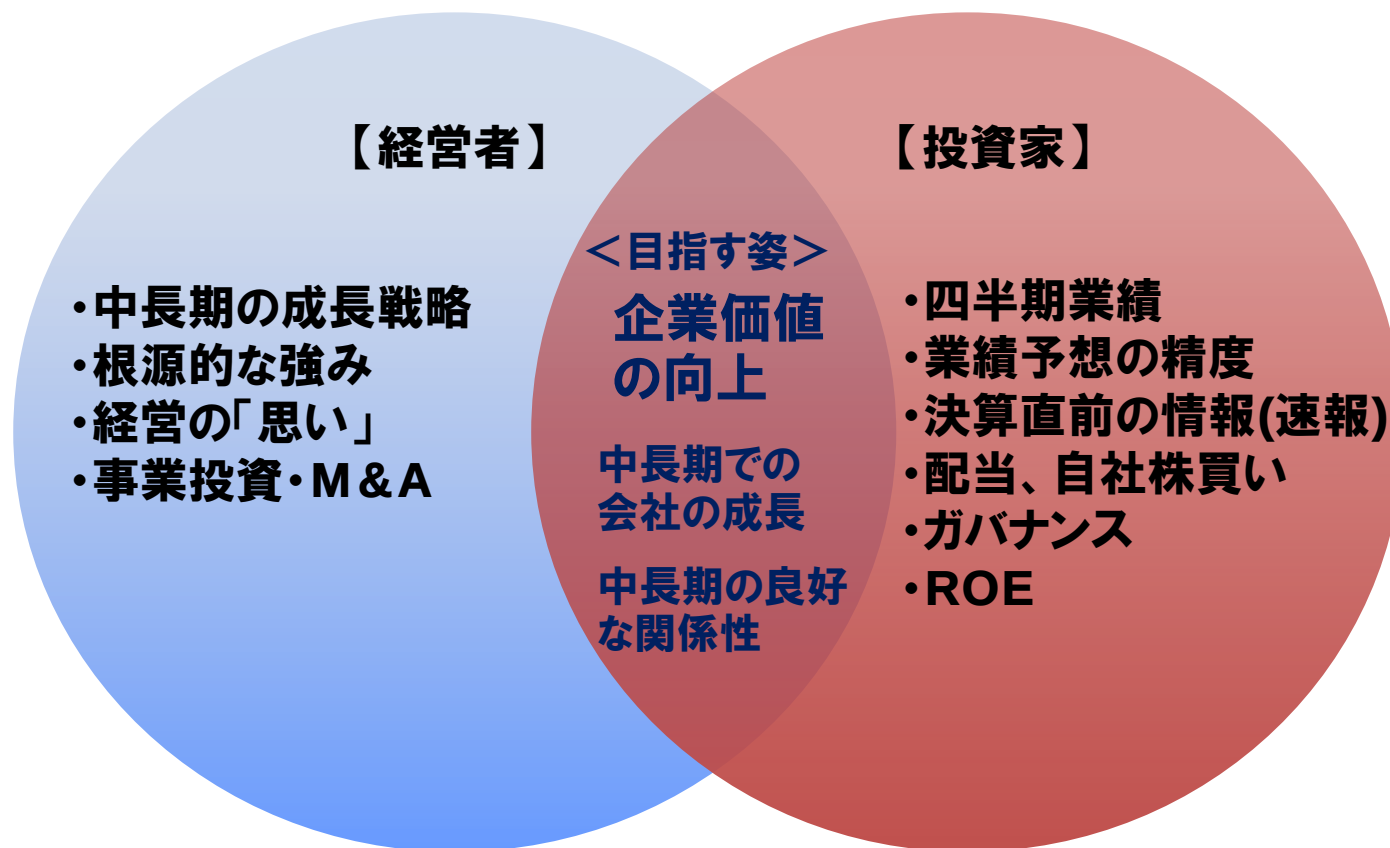
投資家とのコミュニケーションギャップ

非効率な情報開示

投資家ターゲティング

投資家とのコミュニケーションギャップ

目指す姿は同じだが、情報には非対称性が存在する



四半期開示に関して

日本の開示は遅れているのか？

■四半期報告制度の国際比較

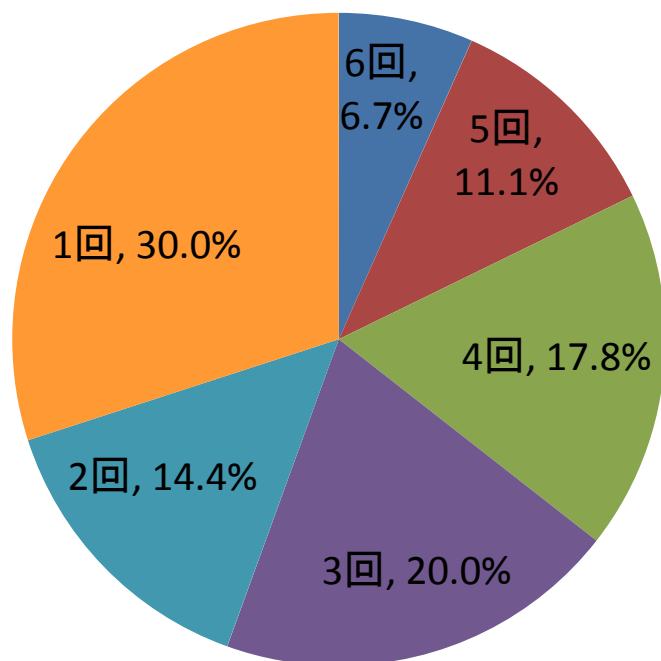
	日本	アメリカ	ドイツ	イギリス	フランス
報告の頻度	四半期	四半期	四半期	半期	半期
報告期限	45日以内	規模により 40日又は 45日以内	2カ月以内	2カ月以内	2カ月以内
監査 (レビュー)	要	要	要	義務ではない	要

- ・欧州では必ずしも四半期報告は行われておらず、報告を行う場合も定性的かつ限定的な開示が求められているのみ。
- ・日本でも四半期報告の簡素化が進んでいるが、欧米と比べても短期間でより多くの情報開示が求められている。

四半期開示に関して

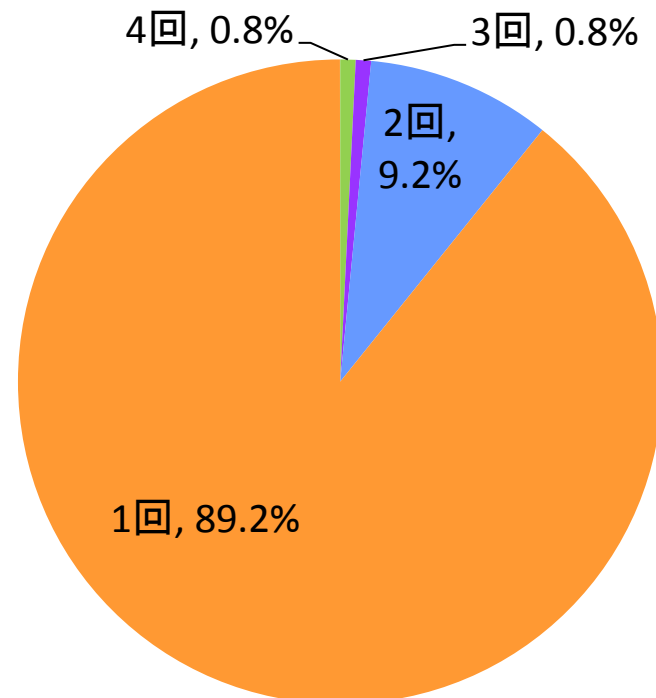
取材頻度が高い国内投資家

＜国内投資家＞



- 過半数が年3回以上、36%が年4回以上取材を実施。

＜海外投資家＞



- 取材頻度は年1~2回。
- 四半期ごとの取材を希望する投資家はいない。
(2012年11月海外IR時アンケート結果より)

* 当社の取材件数内訳(2012年4月～2013年2月) One on Oneミーティングのみ(海外IR、電話取材含む)

非効率な情報開示

準拠法ごとに異なる開示資料

■主な決算書類

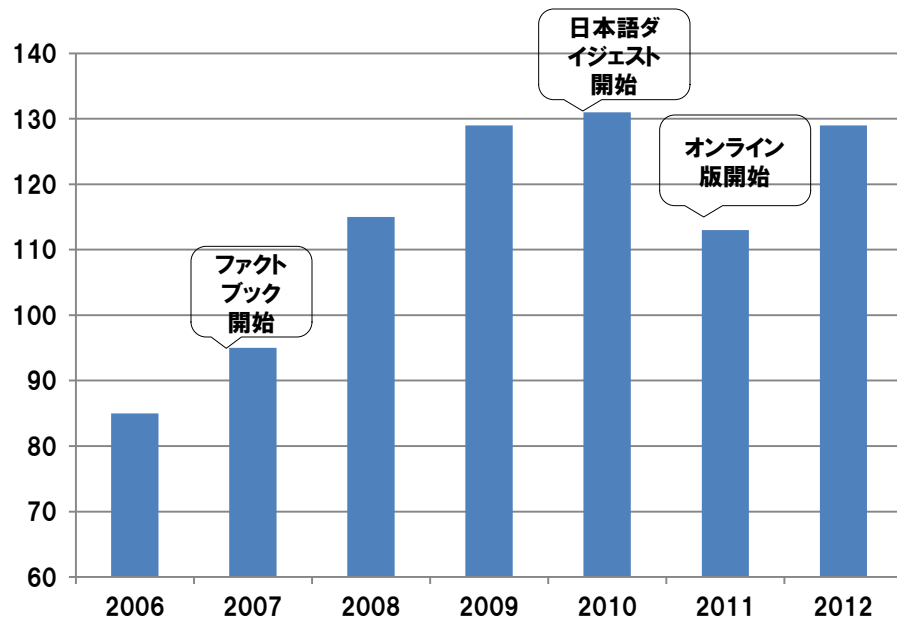
	有価証券報告書・ 四半期報告書	決算短信	事業報告 (計算書類)	アニュアルレポート (英文財務諸表)
準拠	金融商品取引法	証券取引所上場規則	会社法	任意
監査報告	○	—	○	○
掲載内容	・業績予想なし ・単体記載あり	・業績予想あり ・CF、セグメントは任意 ・注記は重要なもの以外省略可	・業績予想なし ・単体記載あり	・連結財務諸表を 国外向けに組替・ 調整
数字表記	単位未満切捨	単位未満切捨	単位未満切捨	単位未満四捨五入

企業の負担大→報告基準・様式の統一、簡素化ができないか？

非効率な情報開示

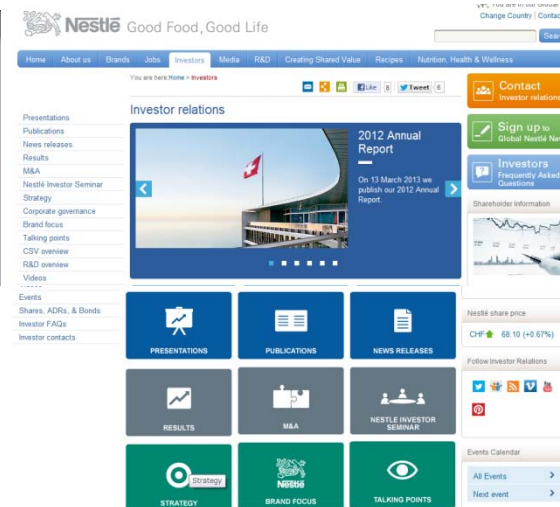
ガラパゴス化する(?)日本の開示資料

＜当社アニュアルレポートページ数推移＞



コンテンツの増加に伴いページ数が年々増加

＜海外企業のIR Webサイト＞



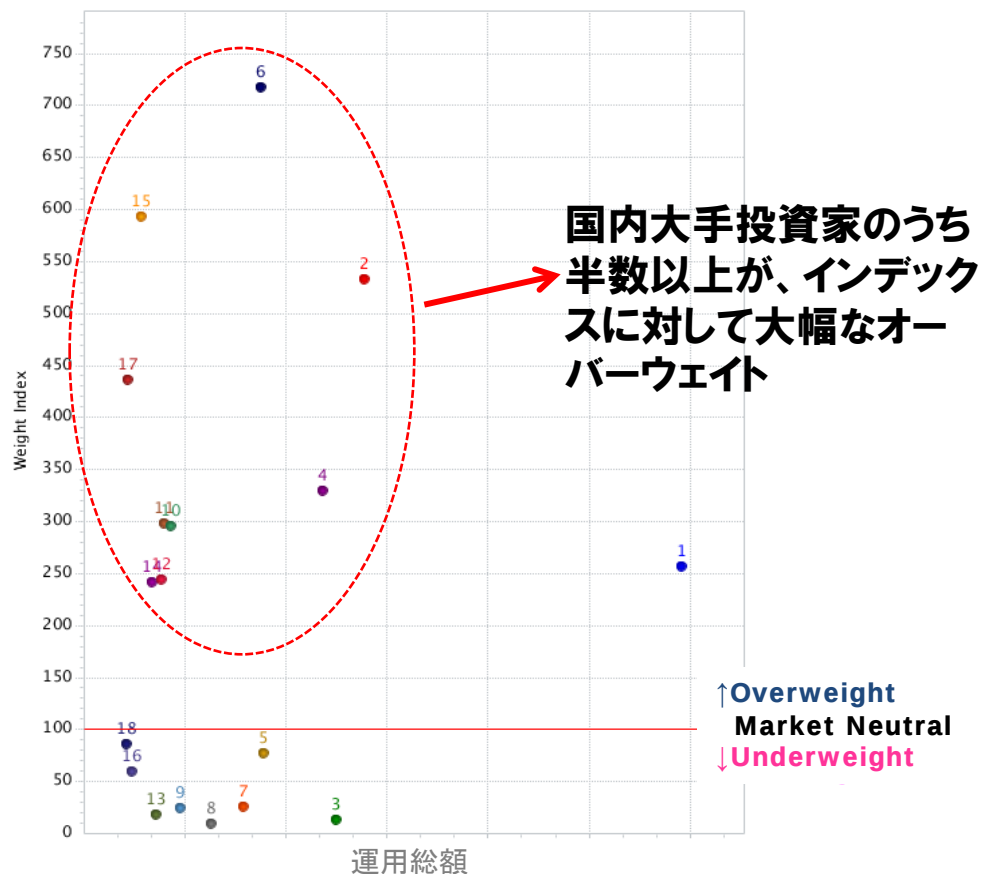
個性豊かな海外企業のIRサイト

第三者による明確な評価基準→全体のレベルアップ
一方で横並び現象も・・・

投資家ターゲティング

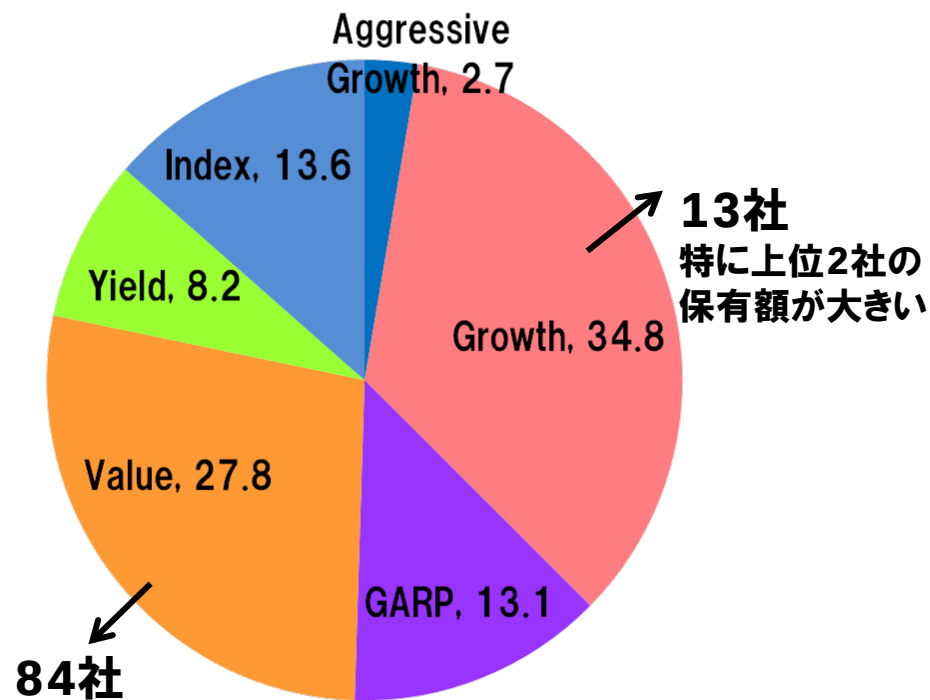
重要度が増す海外投資家

<国内投資家の保有状況>



追加投資の余地は？

<海外投資家の保有状況(投資スタイル別)>



Growth型投資家の比率大
→個別投資家の動向に左右されやすい

投資家ターゲティング

投資家ターゲティングへの流れ

情報元

- 証券会社
- 株主判明調査
- IR支援会社



判断項目

- 株主／非株主
- 保有株数、保有年数
- 属性、投資スタンス
- 資産規模
- 他の投資先

課題

- 投資家の動きが早くデータが常に最新とは限らない
- 属性、投資スタイル、地域でひとくくりにはできない
- 投資家の本当のニーズが把握できているのか

投資家ターゲティング

一層重要性を増すSRI投資にIRはどう取り組むか

<当社が組み入れられている主な指数・ファンド>

SRI指数・ファンド名	評価機関
DJSI World	SAM (スイス)
FTSE4Good	EIRIS (イギリス)
Global Challenge Index	Oekom research (ドイツ) Hanover stock exchange
ASN Sustainable Equity Fund	ASN Bank Selection Committee
自然環境保護ファンド(尾瀬紀行)	インテグレックス
SRI・ジャパン・オープン(グッドカンパニー)	日本総合研究所
社会的責任ファンド(SRI計画)	インテグレックス
日本株式SRIファンド	日本総合研究所
三菱UFJSRIファンド(ファミリー・フレンドリー)	グッドバンカー
損保ジャパン・エコ・オープン	NKSJリスクマネジメント
損保ジャパンSRIオープン(未来のちから)	NKSJリスクマネジメント、インテグレックス
損保ジャパン・グリーン・オープン(ぶなの森)	NKSJリスクマネジメント
ダイワSRIファンド	インテグレックス

